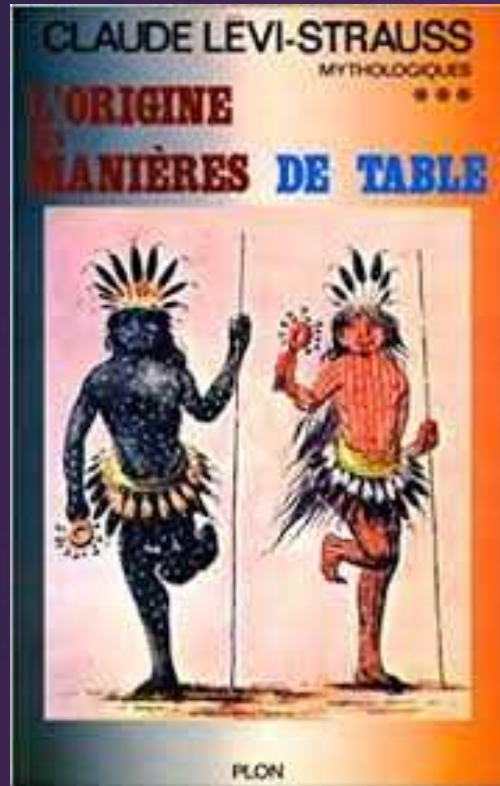


レヴィストロース
神話学第3巻
食事作法の起源 2
麗しのアサワコ

部族民通信 2024年2月20日



L'Origine des Manières de Table
食事作法の起源 1968年7月出版 Plon社

主な内容

- 1 食材（取得、摂取）における文化介入
（モンマネキ神話）
- 2 文化継続のために周期性の確立
（転がる首神話群）

3 近すぎる同盟、遠すぎる同盟 （麗しのアサワコ）食事作法が 同盟作法の教え

- 4 食事で音を立てる、立てない
（カエルと娘の食い競争、北米Arapaho族）
- 5 数え方の起源
- 6 新大陸神話の北上説

食事作法の起源 L'Origine des manières de table2

麗しのアサワコ Belle et Sage Assawako
Warrau族

通過儀礼中の若者Waiamariと歳上の佳人アサワコの悲恋。

食事作法との関連は？
恋愛作法と食事作法はしっかりと繋がっています。

結論は最終のスライド、まずは神話をお楽しみ

M406 Warrau族 麗しのアサワコ Histoire de la belle et sage Assawako ;

主人公Waiamariは訳あって叔父宅に寄寓する。

叔父は複数の嫁を持つ。若い嫁が水浴びの最中にWaiamariに水を掛けた、水掛は女からのあからさまな誘い（「蜜から灰へ」で蜜蜂化身Simoが義妹に思わせぶりに水を浴びせられた）。Waiamariは「Inceste ! honte sur toi近親姦だ、己の恥をしれ」ときっぱりはねのけた。叔父宅にこのまま居てはさらに迫られると別の叔父（Okohi）宅に移る。

同居していた叔父はWaiamarの行動を怪しみ、讒言もあってWaiamariが先に妻を誘惑したと決めつけた。引っ越し先に来ては鬪いを売りつけた。

そのたびに叔父がWaiamairiの背をとる(勝つ)。レスリングで年長者を破るが通過儀礼、その一コマですが、叔父は本気を出してWaiamariを破り壮丁組入りを妨害する。甥の社会地位の確立に手を貸さない。あるいは彼が後腐れを恐れ、手加減したのかもしれない(111頁)。

続く段で「女もなびく」壮健な若者らしき記述があるから、年長者に負ける道理がないと小筆は推測した。

Okohiが仲介に入り、Waiamairiに旅をさせる（儀礼通過のやり方を変える）。

解説 ; Warrau族は母方居住、男は成人の後、男小屋に集団居住する。Waiamariは儀礼 Initiation前なので母の居宅に住む。叔父は母とその姉妹を嫁とする、彼女らの居宅に「夜にのみ通う」別支族の男であろう。いずれ成人通過儀礼後には彼と対抗する事になる。

言い寄ってきた叔母をはねのけた言い様は « Inceste ! » 近親姦。

« Ce départ éveilla les soupçons du premier oncle qui l'accusa d'avoir voulu séduire SA PROPRE TANTE » 突然の出立が初めの叔父に疑念を湧かせた、彼が実の叔母を誘惑したかったのだ、叔父は疑ったの文がに繋がります、PROPRE TANTE実の叔母（母の姉妹）を大文字にしました

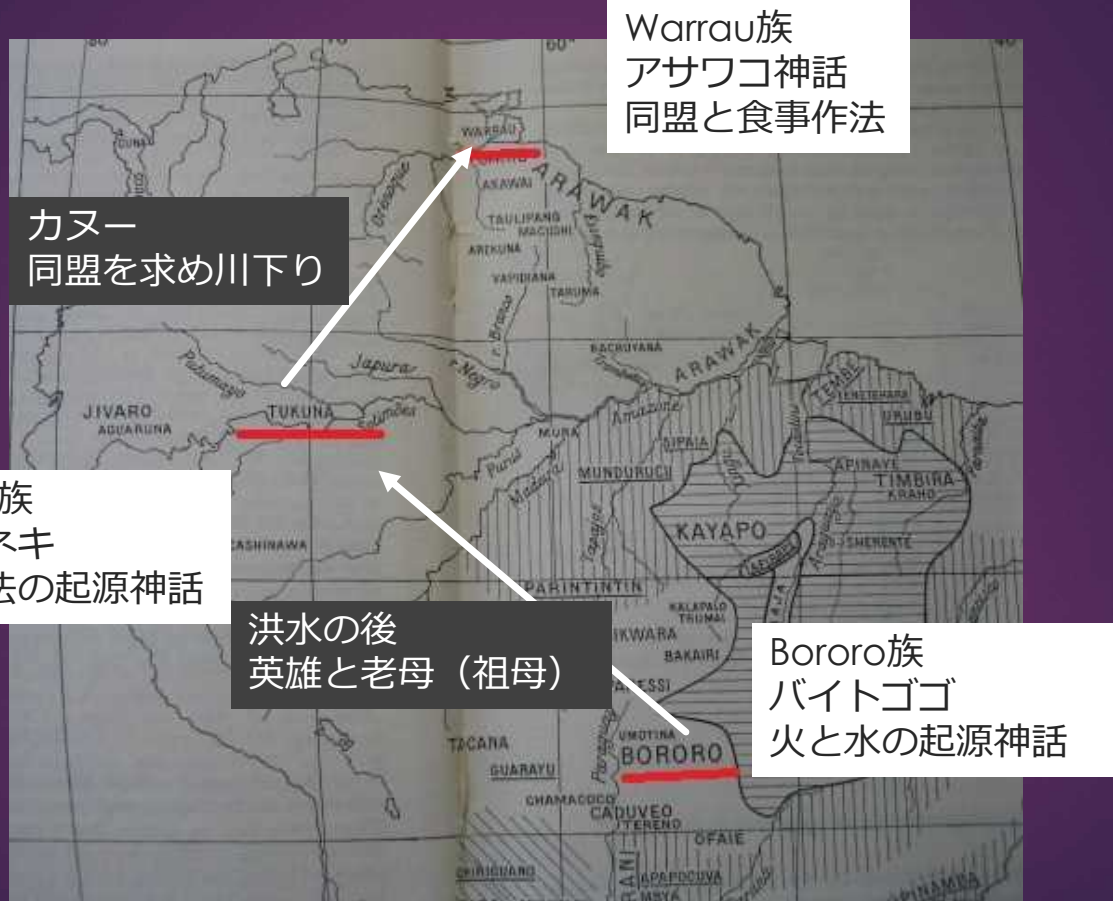
成就する仕組みがない近すぎる同盟（近親婚）は否定された。

読者はここでM1（第一巻、生と調理の最初の神話、Bororo族）の状況設定との似通い気づきます。M1では実の母と姦（上下婚オヤコタワケ）、結果バイトゴゴは父に断崖に遺棄される。

通過儀礼の直前の少年が母系居住する危うさを発端とし近親姦にからめている道筋からしてM401はM1の伝播であります。一方でM401には洪水、文化創成はありませんがカヌーで川下り、嫁探しのモンマネキの主題（Tukuna族伝承）がここに引き継がれている。（Warrau、Tukuna、Bororo族の居住地は図を参照）

Waiamariの儀礼の旅とは（同じ支族の）叔父Okohiとのカヌー一行。オリノコを下ります。舳先にWai.. 艫に叔父の配列は身分の上下からしての位置取り。程なくしてアサワコAssawakoの住む岸边に着く。彼女を形容するに原文はla belle et sage(美しく賢く)を用いている。美しい上に(賢いから)しとやかで男を立てる、それを「麗し」と訳した。

渋谷に訪ね跋扈ガングロ跳梁におののいた平成はさておいて、令和の今の帝都にて帝都電鉄遡る渋谷か新宿、デカマスク女の数や幾数多、千歩に万歩を破ろうもアサワコ麗し遭遇するは万馬券当てるが難しさ



Warrau族
アサワコ神話
同盟と食事作法

カヌー
同盟を求め川下り

Tukuna族
モンマネキ
食事作法の起源神話

洪水の後
英雄と老母 (祖母)

Bororo族
バイトゴゴ
火と水の起源神話

図は神話学第一巻
生と調理から

« Celle-ci les reçut gracieusement et pria l'oncle de laisser son neveu l'accompagner aux champs...Assawako dit au jeune homme de se reposer pendant qu'elle irait chercher de quoi manger »

拙訳；アサワコは二人をおおらかに受け入れた。叔父に「野に出ますのよ、甥ごさんをお借りしてよろしいでしょうか」と頼んだ。森に入ってアサワコは「ちょっとした食べる物を見つけてくるからここに休んでいるのよ」一人奥に入った。De quoi mangerはフランス人が昼食を摂るさいに用いる言い回し「何とか口に入る」粗末な食べ物。それを食すはcasser la crouteパン皮を壊す、と組になる。

持ち帰った「De quoiちょっとした物」とは « Elle revient bientôt avec des bananes-légumes et des ananas, une grosse botte de canne à sucre... » バナナ、パイナップル、サトウキビ、スイカ、ピーマンなど。両手に一杯抱えていた。アサワコは謙遜したのだ。帰り道に彼女は尋ねる

「あなたってきつと、素適な狩人なのよね」（= elle demanda s'il était bon chasseur）。Wai...は道を外れ森に入る、その時の描写。

« Il s'éloigna sans mot dire et la rejoignit presque aussitôt avec une pleine charge de viande de tatou. Elle était fière de lui, comme il convient à une femme, elle reprit sa place en arrière »

訳；一言も発せずワサワコを離れしばし、立ち戻った。手にはアルマジロ肉をたっぷり抱えて。アサワコはすっかりWai..に魅せられて、その位置が慕う女性に心地よい男の後ろ背に身を寄せた。

« Quand ils furent presque arrivés, elle promet qu'on trouverait de quoi boire dans la hutte et s'informa s'il savait jouer d'un certain instrument de musique. Un petit peu, répondit le garçon. Il joua d'une façon merveilleuse. Ils passèrent la nuit en tendres ébats »

帰りの道はもうすぐ終わる。村を前にしてアサワコはWai..に小屋には飲み物があるのよ（寄ってかない）。あなた、何か楽器が弾けるのかしら。するとWai..は「ちょっとだけ」と答えた。いざ手に取ると、彼はすばらしい奏者であった。かくして二人は甘いébatsにその夜を過ごした。

叔父が気を効かせとつくの前に納屋奥に身を引いた。

甘い飲み物 (hydromel蜂蜜酒) に二人は酔い、もっと甘い楽器の調べにうっとり女が聞き惚れて、奏でるいなせがクレッシェンドで迫る。半日が一夜、二人重なる楽しみは三度か四度か (原典にここまで、とくに回数などは書いていないけど)。

迎える終幕の « Ébats » とは何か。辞書では気晴らし楽しみとある(スタンダード)。少し踏み込もう、ébats amoureux (愛の楽しみ) なる語を発見した。

その具体意味はactivités érotiques (エロチックな様々な活動、Robert) とある。睦み合いが訳語になるか。必ず複数形で用いる仕組みは、手を変え技なんかも添えながら動きは緩から急に、いろんな複雑運動での二者対決を表すからである。

しかし愛は成就しなかった。

Waiamariは « Je ne puis pas abandonner mon oncle. Il a toujours été bon pour moi » 叔父を捨てる訳にはいかない、彼はいつも私をよくしてくれたとアサワコに告げる。 « La jeune femme fondit en larmes, lui aussi était triste » 新妻は目に涙を溜め悲しむも、彼だって悲しかった。Wai...がとどまれば叔父は一人にしてカヌーで川を遡る事になる。

叔父一人戻りで遡りさせるとは、叔父を捨てると同じである。一人でカヌーは操れない、モンマネキが転覆した理由も舳先に助手なしだったから。

これら神話背景をレヴィストロースは「流れるまま下流に伴侶を求める行為は、同盟（姻戚関係）を築くには遠すぎる」との先住民の教えであるとする。

同盟を確立するには周期性（*périodicité*）を持たなければならない。

遠くてはこの周期交流が難しい。そのうえ貴重な資源（若者）が再生産活動から脱落する。社会維持に反する色恋と糾弾されるかもしれない。周期性が前提の同盟の確立にWai..が思いをはかれば、アサワコ村に居残る選択は誤りである。

若者が遠方娘と恋に落ちる、こんな恋愛は起こりうるが、必ず悲劇で終わる。オリノコ川に結ばれた上流男と下流娘の遠すぎた同盟は成立しなかった。

«Je ne puis pas abandonner mon oncle. Il a toujours été bon pour moi » 叔父を捨てる訳にはいかない、彼はいつも私をよくしてくれた

涙を溜めて別れるアサワコ。« La jeune femme fondit en larmes, lui aussi était triste »
新妻は目に涙を溜める悲しみ

モンマネキ神話での教訓とは「分割女（第5話）含め人獣婚姻」は遠過ぎる同盟で成立しない。Waiamariが出遭った可能性は近すぎる、そして遠すぎる同盟だった。いずれも成就できない。モンマネキ神話の教訓はここにも垂れる。

本神話の伝えかけ

同盟につながる恋愛、その作法は食事作法そのものである。

女は野菜根菜などの採取の腕前を見せる

男は狩り、猟課が肉、これを日頃、給仕できる能力を証明する

上の2は食事作法 = 食材の正しい獲り方、支給方法 = である

前巻の「蜜から灰へ」ではアダバ（カエル）シモ（ミツバチ）が娘家族にたっぷり肉を贈った。それで人間の嫁を貰えた。

同盟の成立と維持は食事作法の確立である

（食事作法は必要条件、周期性 = 前スライド = の確保が十分条件）

基準神話(M1) とモンマネキ及びアサワコ神話の関連

参考スライド

▶ 神話学第3巻食事作法の起源 起因、行程、結末の比較



神話	起因	過程	結果
M1鳥の巣あらし (Bororo族)	近親姦 (自然の肯定) =近すぎる同盟 通過儀礼拒否(制度の否定) 雛を父に与えない (同)	主人公の死再生 (文化形成努力) ジャガー妻殺害(人獣同盟の否定)	洪水 火と料理の取得(文化)
M354モンマネキ の妻問い譚4話 (Tukana族)	人獣同盟 (文化形成努力) 食事作法違反(自然の否定)	人獣同盟の否定 (文化形成の預 言) インコ妻逃亡(人獣同盟の破綻)	魚の創造(文化) 漁獲の困難さ
M406麗しのアサ ワコ (Warau族)	近親姦の拒否 (文化) 通過儀礼で不作為(文化)	愛の語りかけ (食事作法)	周期律の壁 同盟維持の困難さ

- 1 M1では自然=>文化の区別と移行が明瞭
- 2 M354では文化の形成努力と失敗 (モンマネキのインコ化)
- 3 M406では文化の維持努力が明瞭、そして愛は破綻
- 4 M1~M406を通して文化形成し維持する苦闘が読める

作成・部族民通信 (食事作法の起源か
ら) 2019年9月30日 蕃神



アサワコ と
Waiamari

の出会い

悲恋に終わった

両者の顔姿を

ここに発表する


(かくあつたろうと

部族民が想像してありあわ

せのPicsから引き抜いた)

出所はネット著作





レヴィストロース
神話学第3巻
食事作法の起源 2
麗しのアサワコ 了

部族民通信 2024年2月20日